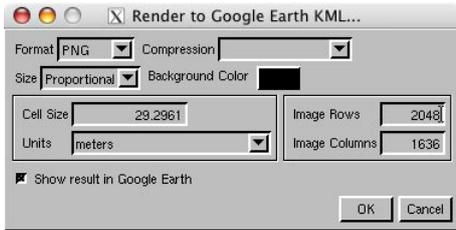


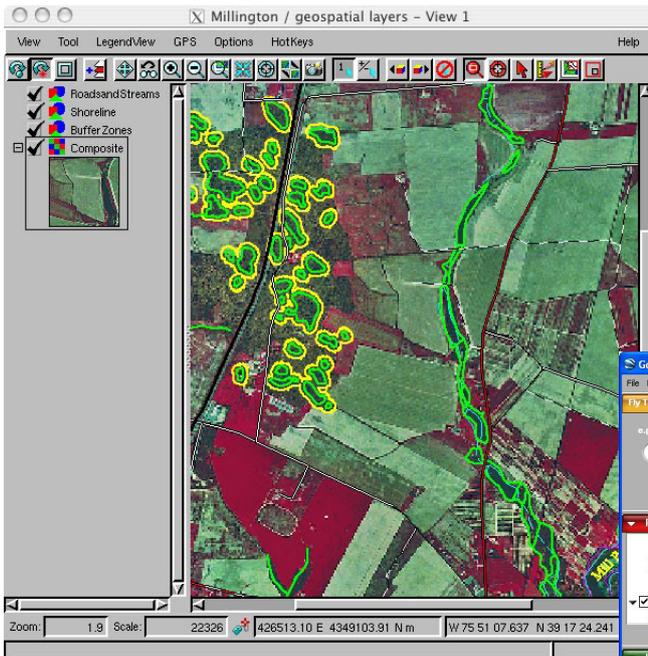
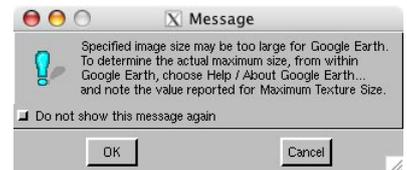
# KML へのレンダリング



KMLへのレンダリング処理(表示マネージャ)ウィンドウの表示(Display)/レンダリング(Render to)/Google Earth KML)は、KMLファイルおよびアクティブな表示ウィンドウにおいて非表示になっていない図形データ、ラスタ、ピンマップレイヤの全範囲を使ってGoogle Earthで表示することができるラスタを生成します。現在の表示スケールにおいて、地図スケールの表示がオフにされているレイヤも、グループ/レイアウトのデザインスケールで表示がオンであればラスタにレンダリングされます。反対に、現在表示されている

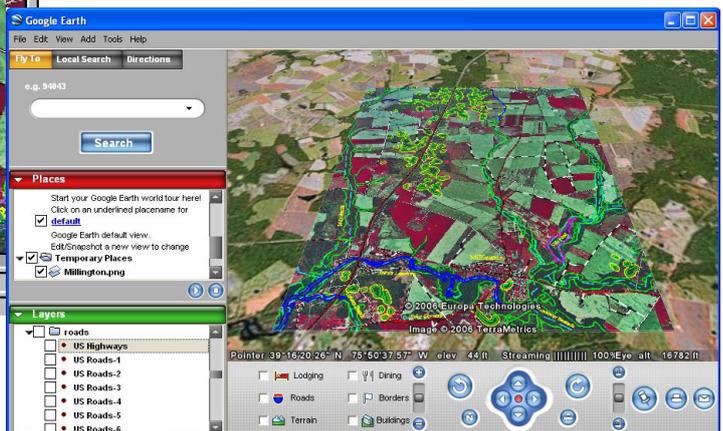
スケールでも指定したデザインスケールではオフになっているレイヤはラスタにレンダリングされません。結果をGoogle Earthで自動的に開くオプションがあり、デフォルトでオンになっています。アクティブな表示ウィンドウをGeoTIFF、TIFF、JPEG、もしくはPNGフォーマットのラスタに変換できます。これらはGoogle Earthで現在サポートされているフォーマットです。圧縮のタイプと画像サイズのオプションは、Google Earthに限定していない「ラスタへのレンダリング」機能と同様です(「空間表示:ラスタへのレンダリング(Spatial Display:Render to Raster)」のカラープレートを参照)。上にあげたラスタフォーマットの制約に加えて、Google Earthでは入力データは緯度/経度すなわち地理座標のジオリファレンスを持っている必要があります。ジオリファレンスが緯度/経度でなくても、KMLファイルへのレンダリング時に角の座標が緯度/経度に変換されます。この方法は単純で良いのですが、グループ/レイアウトの範囲に対してジオリファレンスのコントロールポイントの位置がかなり接近している場合、Google Earthでの位置がうまく合わないことがあります。必要であれば、緯度/経度座標へリサンプリングまたは座標変換(warping)することによって、位置がよく合うようになるかもしれません。

TNTliteのサイズに保存する目的でなくても、希望するセルサイズ、または行数、列数を入力して出力ラスタのサイズを調整することができます。Google Earthは現在、「保留(Temporary Place)」で使用する各ラスタのサイズを制限しています(一般的にWindowsでは縦横2048ピクセル、Macでは縦横4096ピクセル)。出力サイズが許されるサイズより大きい場合、KMLファイルがあってもGoogle Earthでは表示されません。この最大サイズより大きなサイズを選択すると、右図のメッセージが表示されます(必要に応じてこのメッセージはオフにすることができます)。[クイック保存の後にすぐGoogle Earthで結果を表示する(Show result in Google Earth immediately after quick-save)]ボタンがオンにしていれば、ラスタはGoogle Earthの「保留」に追加されます。現在の全表示範囲より小さい範囲をGoogle Earthを使ってレンダリングしたければ、ラスタもしくは各種図形の抜き出し処理を使って一部分を抜き出したり、表示範囲を調整してクイックスナップショットを使って下さい。



ベクタやCADの各種図形レイヤのみ、ラスタレイヤの範囲を超える図形レイヤ、またはヌル領域のあるラスタデータをレンダリングする場合は、[背景色(Background Color)]ボタンで背景の色を選択できます。PNGフォーマットに保存する場合はそのエリアは100%透明化されますが、半透明をサポートしていないビューワでは選択した背景色が使われます。

\* Google Earthでのテクスチャの最大サイズをチェックしてください(WindowsではHelpメニューから「Google Earthについて」を選択します。MacではGoogle Earthメニューから「Google Earthについて」を選択します)。



注意: Google Earthでは、上の表示ウィンドウで見えている範囲よりもっと広い範囲が表示されます。表示しているレイヤの全範囲が出力ラスタにレンダリングされます。